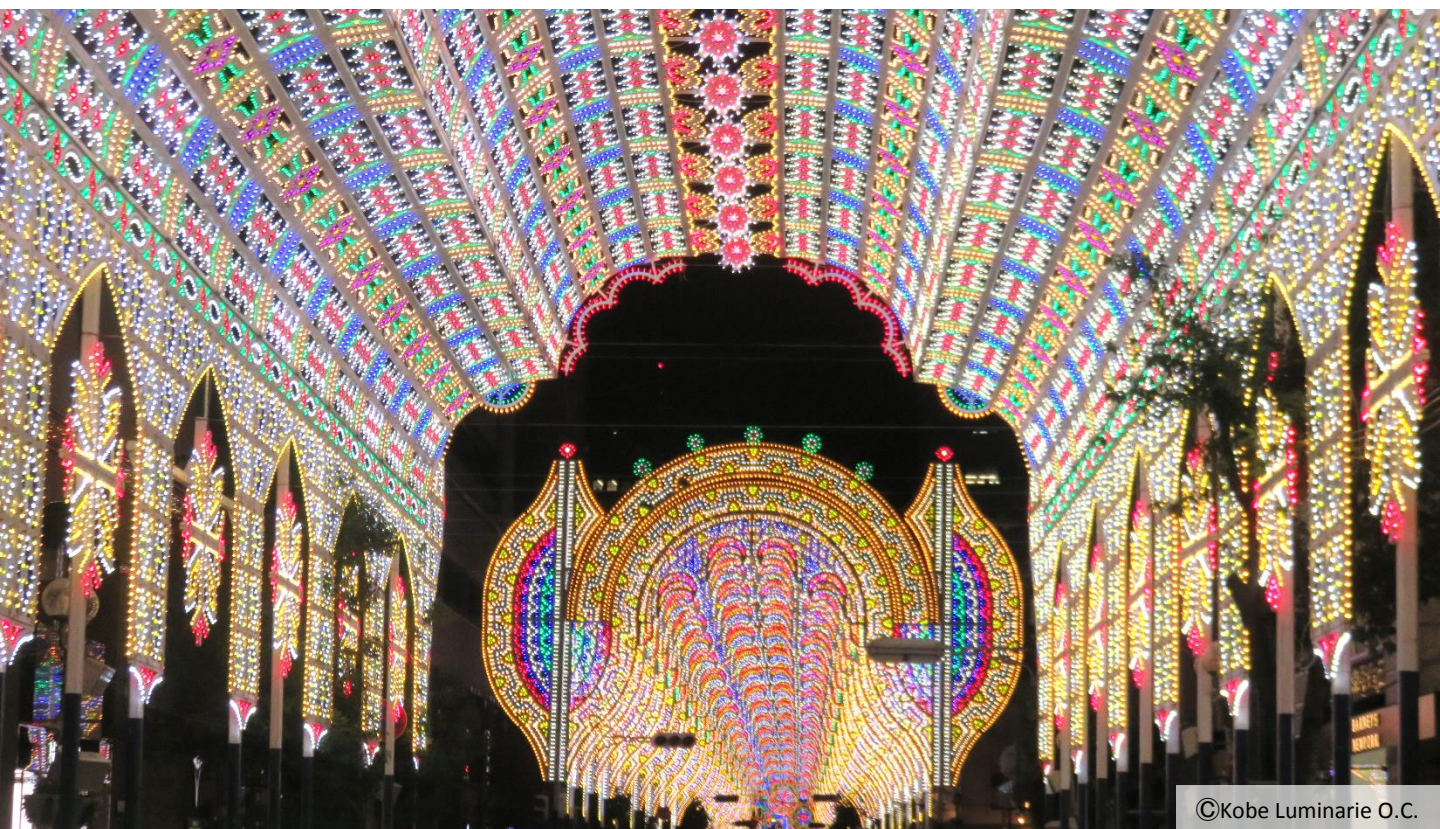


災害の記憶を伝える —神戸の地震・風水害—

2019年、阪神・淡路大震災から24年を迎えます。毎年末のルミナリエは、神戸の冬の風物詩として定着し、訪れる人たちを楽しませると同時に、震災への思いを新たにする機会でもあります。みなさんは、1995年の阪神・淡路大震災を、どれだけご存知ですか。

地震や風水害が頻繁に起こる日本列島では、災害の記憶を引き継いで、そこから学び、工夫を重ねるのも大切です。この展示では、神戸で過去に起きた災害と、その記憶を伝える取り組みをご紹介します。

会 期：2019. **1. 10** Th. ~ **1. 31** Th.
会 場：神戸大学社会科学系図書館 2階展示ホール
入 場：無料
開館日時：月～金 8:45-21:30 (1.18Fr. は17:00まで)
土・日 10:00-19:00
休 館 日：1.14 Mo., 1.19 Sa., 1.20 Su.
主 催：神戸大学附属図書館、神戸大学人文学研究科地理学教室



主な展示内容（予定）

第1部 神戸を襲った歴史的災害

災害の多い日本列島にあって、神戸も、大昔から数多くの災害に見舞われてきました。阪神・淡路大震災が起きた百年以上前には、南海トラフの活動による安政南海地震が発生しています。また2018年は、戦前に阪神域を襲った阪神大水害から80年の節目でもありました。

このように、地震や水害などの自然災害は、繰り返しやってくるものです。過去の災害がどのように起き、その被害に対して先人たちは、どう対応して災害を乗り越え、復興してきたのでしょうか。過去に目を向けて災害に学び、記憶を伝える努力が必要ではないでしょうか。

地元・神戸の過去の災害から、自然災害に私たち人間や社会がどう向き合っていくかを考える機会になれば幸いです。

【展示テーマ】

- 安政南海地震・津波
- 阪神大水害



「流石之碑」(神戸市水の科学博物館前)

第2部 阪神・淡路大震災関連資料

神戸大学附属図書館には、阪神・淡路大震災をきっかけにできた専門図書館、“震災文庫”があります。阪神・淡路大震災に関わる図書や記録など、さまざまな資料を収集・保管し、利用者に提供してきました。

震災20年目となった2015年には、「つたえる・つながる—阪神・淡路大震災20年—」展を開催し、阪神・淡路大震災の当時を振り返り、その後の復旧・復興の歩みを振り返りました。以来、毎年1月に、リバイバル展として資料の展示を続けています。

24年を迎える今年も、1995年当時の貴重な記録を展示いたします。震災体験を引き継ぎ、災害の記憶を伝える震災文庫の役割などをご紹介します。

【展示テーマ】

- 神戸で何が起こったか
- 神戸大学と震災
- …そして現在
- 震災文庫【3階の“震災文庫”における展示、紹介となります】



神戸大学震災文庫(神戸大学附属社会科学系図書館内)



震災復旧作業中の風見鶏の館(1997年)